

アプローチカリキュラム実践例

【活動名】交通安全教室で交通ルールを学ぼう！

めざす姿

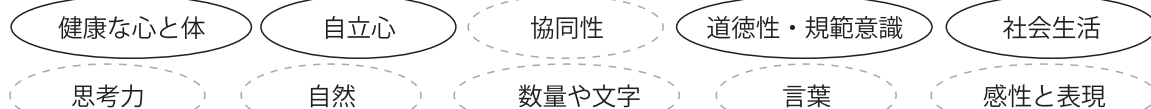
＜規範意識をもつ＞ ＜ひと（自分も他人も）を大切にする＞
 約束やまじりの意味が分かり、それを守るとうとする。
 思いやりと感謝の心をもってかかわろうとする。

環境づくり	子どもの姿	保育者の支援
<p>＜交通安全教室の開催＞</p> <p>警察署の方を招き、交通安全教室を開催する。警察署の方の講義を聞いた後、園庭で横断歩道の渡り方を練習する。</p> <p>＜交通安全教室の感想の共有＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日、クラスで交通安全教室の感想を共有する場を設ける。実際、園の外へ散歩するときを想像して、具体的に注意する場所を確認する。 ・視覚的にルールを理解しやすくするために、必要なものを用意する。信号機の簡単なモデルや大きな地図、車・人のイラスト、近隣の横断歩道などの拡大写真、民間企業から借用可能な教材DVD、交通ルールかるたや絵本、紙芝居など。 <p>＜園外散歩＞</p> <p>園外散歩に行く前に、前回学習した危ない場所と注意事項を、もう一度おさらいする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の話に集中して聞く。 ・どんな危険があるかを理解し、ルールを守ろうという意識をもつ。 ・園の周辺で注意する場所がどこなのか、自分自身で想像できる。 ・自分たちで状況を確認しながら道を横断できる。 ・交通ルールを友達と一緒に確認し合い、互いにルールを守る必要性を感じとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察署の方の話に集中できるように話の中で子どもたちから出た言葉をひろって同意したり、質問を促したりして興味を保つようにする。 ・保育者も学ぶ側である意識をもって、子どもたちの中に入って話にうなずいたり、教わったことを実践したりする。 ・「なぜ守らなければならないのか」をみんなで考え、想像できるようにする。「その人が守らないと、どんな危ないことが起こるかな？」と声かけをする。 ・横断歩道の信号が青でも絶対に安全ではないことや、子どもは遊びに夢中になるとまわりが見えなくなりがちなることを特に意識する。（道路に飛び出さない・周囲を見渡す・運転手と目を合わせる） ・交通ルールの確認をしながら散歩する。「このあいだ、横断歩道を渡るとき注意することは何だったかな？」と働きかける。 ・ルールはみんなで守るものであることを大切にし、「おとなり同士で教え合ってね」と声をかける。

小学校へつなぐ視点

ルールを守ることは、自分の身を守り、健康な心と体をつくるうえで自らその環境を整える力を育むことができる。また、ルールは一人で守るものではなく、みんなでルールを守る必要があることに気づき、教え合いなど周囲とのかかわり合いがあることを感じていき、小学校へつなぐ規範意識を育む。

10の姿とのつながり



アプローチカリキュラム実践例

【活動名】異文化にふれよう！

めざす姿

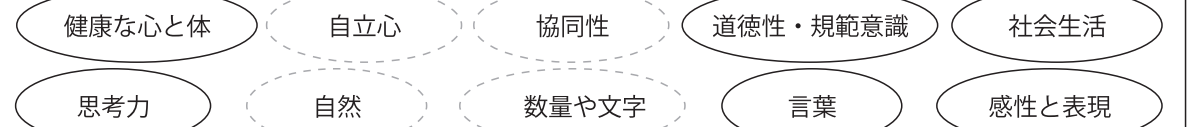
＜ひと（自分も他人も）を大切にする＞＜興味・関心をもって意欲的に取り組む＞
 ・身近な人々との交流を楽しむ。
 ・身近なことに関心をもつ。

環境づくり	子どもの姿	保育者の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・世界には様々な国や言葉があることを知らせる。「どんな国や言葉があるか知ってる？」などと問いかけ、興味をもてるようにする。 <p>＜アメリカ：J氏との交流＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J氏に英語で自己紹介をしてもらう。 ・簡単なリズム遊びを教えてもらう。「Head, Shoulders, Knees, And Toes」音楽をかけ、笑顔とユーモアあふれるジェスチャーでリズム遊びを行う。 ・今度は、日本語で同じ手遊びを行うことで、交流をもつ。 <p>＜ホット ホット スイートポテト＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの説明をしながら、その中で出てくる言葉をみんなで言ってみたり、言語を変えて言ってみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・今度は、日本語で同じ手遊びを行うことで、交流をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている国や言葉話す。 ・最初は驚く様子も見られるが、少しずつ興味を示し始める。 ・音楽がかかると、知っている曲ということもあり、リズムにのって体を動かし始める。 ・英語を口ずさみながら行う子どももいるが、中には人見知りして委縮してしまう子どももいる。 ・知っているリズム遊びということで、安心して行い、J氏との距離も縮まる。 ・みんなで同じ言葉を言うことを楽しむ。 ・色々な国の言葉を言ってみたり、外国の人と一緒に遊んだりする楽しさを知る。 ・遊びながら外国の文化や言葉を知り、人それぞれ違いがあることを理解し、尊重できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、「こんにちは」という言葉はほかの言語で話すと何と言うかなど具体的に話し、友達同士であいさつやジェスチャーなどをしてみる。 ・子どもが安心して参加できるように、傍につき簡単に日本語で説明をしていく。 ・「頭、肩、膝、つま先……」などを日本語で補足し、なじみのあるリズム遊びであることを知らせる。 ・一緒に行うことで英語のリズム遊びの楽しさを伝える。 ・無理強いせずに、自然に参加できるように心がける。 ・英語のリズム遊びを覚えてもらったので、今度は子ども達と、同じリズム遊びを日本語で行う。 ・ボールまわしゲームと同じ内容であることを伝え、今日は「さつまいも」をテーマにすることや、音楽が止まった時に持っていた人は、おいもダンスをすることを話し、手本を見せる。 ・外国の文化を取り入れたゲームを実践するなど、遊びの幅を広げていく。

小学校へつなぐ視点

遊びを通して、外国の文化や言葉を知り、相手との距離が縮まることの大切さを学び、外見や言語で判断するのではなく、楽しみながら、お互いのことを理解していくことを学ぶ。他国との共通点や違いを知ることで、人はそれぞれ違うことに気づき、個人個人を尊重する大切さを知る。

10の姿とのつながり



【活動名】
音はなぜ出るの？

めざす姿

<わくわくきらきら心を動かすことができる><興味・関心をもって意欲的に取り組む>
・美しいものや普段見慣れないものに出会ったとき、心の動きに気付く。
・興味をもったことに積極的に取り組む。

環境づくり	子どもの姿	保育者の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・普段どおり、ピアノを弾いて歌をみんなで歌って楽しんでいる途中に、「ピアノの中はどうなっているのかな？」と、ピアノの音に興味をもつように声かけするところから始める。 ・子どもたちで、どうしてピアノの音が出るのか想像し合い、紙とペンで想像図を描けるようにする。 ・「じゃあ実際に見てみよう！」と声かけし、ピアノの蓋を開けてみんなで中を見る。 ・ピアノ以外でも身のまわりの音に興味をわくよう、音の出るもの（金物やガラス、バケツ、ペットボトルなど）を用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの音の仕組みに興味をもつ。 ・ピアノの音がなぜ出るのか、想像をふくらませていく。 ・ハンマーが弦を叩くことによって音が出る仕組みに気付くことができる。 ・弦の太さや長さによって音が変わることに気付く。 ・身のまわりのものから出る音の音質や大きさ、聞いた感覚に違いがあることに気付く。 ・身のまわりの音に興味・関心を広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな発想でもよいので、自由に想像して描いた絵を、みんなで発表し合い共有する。 ・ピアノの音を弾きながら、「この音はどんな感じがする？」と音の違いに気付けるよう声かけをする。 ・身近なものを叩いて音を出す遊びが出てくるなど、子どもたちの様々な発想を大切に、必要に応じて支援していく。

小学校へ
つなぐ視点

豊かな感性を育むためには、子どもが音を聞いて何を感じ、何に気付き、どんな感情を抱くのか、それによってどのようにイメージを広げ表現するのか、表現のプロセスに着目していく。そのような経験ができる機会をたくさん用意することで、身のまわりの様々なものに興味がわき、子ども自らかかわっていけるようにする。

10の姿との
つながり



【活動名】
電車ごっこ

めざす姿

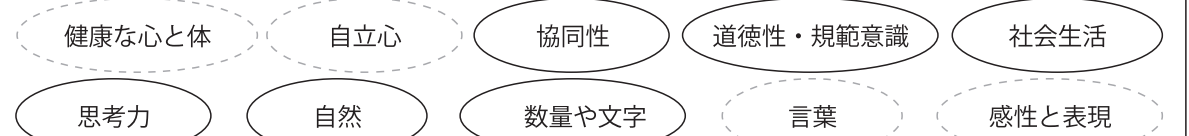
<興味・関心をもって意欲的に取り組む> <規範意識をもつ>
・興味をもったことに積極的に取り組む。
・みんなが気持ちよく過ごせるルールを自分たちで考えようとする。

環境づくり	子どもの姿	保育者の支援
<ul style="list-style-type: none"> <駅へ向かって散歩> ・駅周辺の様子（お店、マンション、神社などについて）を知る。 ・交通ルールを守りながら歩き、自然の変化に気付き、関心が高まるようにする。 <駅の様子を観察> ・駅で働く人、利用者、電車、運賃や時刻表など、駅にかかわる様々なことに興味をもてるようにする。 <みんなの駅作り> ・様々な材料でみんなの駅を作ってみる。 ・何を作るかをみんなで話し合い、担当を決定する。 ・作業の開始。 <電車ごっこ> ・役割分担をし、順番にみんなで遊ぶ。 具休例：運転手、車掌など ※駅名や電車は、実在するものでもしないものでもよい。役割分担も含め子どもたちの発想に任せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅に近づくにつれて町並みのいろいろな変化に気付く。 ・様々な危険性を知り、ルールを守ろうとする。 ・季節の移り変わりに気付き、肌で感じる。 ・駅員さんの仕事は何か、電車に乗るにはどうしたらよいかなど、関心をもち、知ろうとする。 ・駅名に興味をもつ子どももいる。 ・自分の意見を一人ひとりがしっかりとと言える。 ・みんなで話し合って役割やルールを決めて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな建築物や道路が多くなっていることなど、変化に気付くような声かけをする。 ・横断歩道だけではなく、細い道でも自分で止まって確認することの大切さを知らせる。 ・四季を振り返って、自然事象の変化に気付き、関心がより高まるように導く。 ・子どもたちが様々なことに関心をもてるように、「何をしているのかな？」などの質問を投げかける。 ・知りたいという気持ちを大切に、確認したり、園に帰ってからみんなで調べたりする環境づくりをする。 ・一人ひとりが自分の考えを言えるように配慮し、みんなの意見を取り入れるようにする。 ・様々な材料の提供をし、作業を見守る。 ・同じ空間で遊ぶ中でも、必要があれば声をかけるなどの配慮をし、一人ひとりが楽しめるように見守る。

小学校へ
つなぐ視点

・興味や関心をもつことで、自ら学ぼうとする意欲が育てられる。
・どんな社会にもルールがあり、それを守る必要性に気付き、一人ひとりが自ら守ろうとする大切さを知る。

10の姿との
つながり



【活動名】
朝のスピーチをしよう

めざす姿

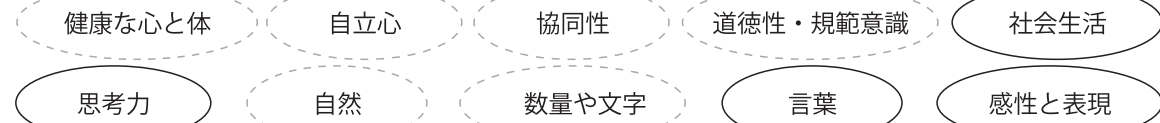
- <自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる> <自己肯定感をもつ>
 ・友達を意識しながら、文字や言葉で伝えようとしたり、一緒に考えようとしたりする。
 ・学校生活の中で、何かできたときに認められたり、達成感を味わったりする。

環境づくり	子どもの姿	教員の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・教員が毎朝自分の好きな生き物や、食べ物、お菓子などをスピーチしていくことで「自分も話したい」という思いを高めていく。 ・「園でスピーチをしたことがある人」と問いかけ、経験者や「やってみたい」と手をあげた児童から前に出て、スピーチをする。 ・スピーチは立候補制として、チャレンジしたい児童から自主的に行えるように、名前マグネットを使った掲示を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくも好き」「わたしは〇〇が好き」ということを思い思いに言う。 ・話型を基に、自分が好きな生き物や食べ物などを伝えることができる。聞いている児童も質問や意見を言うことができる。 ・「スピーチチャレンジスペース」に自分の名前マグネットを貼り、練習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す話型は「わたしは〇〇が好きです。どうしてかというところ～だからです。何か質問や感想はありますか。」など、短く児童がまねしやすいものにする。自信をもってスピーチできるようにする。 ・学習していないが、話型の提示をしておくことで、安心してスピーチすることができる児童が増える。 ・スピーチした児童をほめることで、全員の意欲を高める。 ・スピーチが成功した児童の名前マグネットに合格シールを貼ることで視覚的区別をし、まだチャレンジしていない児童が優先的にスピーチにチャレンジできるようにする。 ・全員がスピーチをクリアした班や、友達をクリアさせるために一緒に練習している班をほめていくことで、「みんなでクリアしよう」という意欲付けをする。 ・国語科「わけをはなそう」と関連付けることで時数の確保をしたり、学習効果を上げたりすることができる。

園からつなぐ視点

自分のことを自分で表現したり、聞いてもらったりすることは、自信を育み、所属充実感を得ることにつながる。日頃のクラスの人間関係の中で自然に自己表現しやすい雰囲気をつくっていくことで、誰もが大好きなスピーチ活動につながると同時に、相手意識のある話し手・聞き手としての姿勢を育む。

10の姿を踏まえたつながり



【活動名】
さあ 始めよう(国語科)
きょうから 1ねんせい(生活科)

めざす姿

- <興味・関心をもって意欲的に取り組む>
 <自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる>
 ・いろいろなことに興味や関心をもち、取り組もうとする。
 ・人の話をよく聞こうとする。分かりやすいように話そうとする。

環境づくり	子どもの姿	教員の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・生活科を始めとする入学時の適応指導を含め、教科横断的に時間割を作成し、学校生活の様々な場面で学習したことを生かせるようにしていく。 <p>なんていおうかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面絵や教科書の挿絵などを活用し、学校生活での様々な場面を想起し、どんな言葉で話をしたらいいのか考えられるようにする。 <p>どんなおはなしかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の読み聞かせを通して、話を聞く基本的な姿勢や国語科学習への学習の導入にする。 ・読んだ本を教室に置き、子どもが手に取って読めるようにする。 <p>えんぴつのもちかた・かくときのしせい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の正しい持ち方や書くときの姿勢などを教室掲示し、授業開始時など、いつでも確認できるようにする。 <p>どうぞ よろしく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の机の名札を見ながら名刺の名前を書く、書き方の見本を見せるなど、手本を用意する。 <p>生活科「きょうから 1ねんせい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科で書いた名刺を交換して自己紹介する場を用意する。 <p>こえのおおきさ、どうするの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じた声の大きさや出し方を視覚的に分かりやすく教室掲示し、適宜確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じた話し方や適切な言葉づかいが分かる。 ・話し手の方を見ながら話を聞き、それぞれの場面の話題に沿って適切な言葉を考える。 ・想像力を働かせ、本の世界を楽しむ。 ・自分で読みたい本を選ぶ。 ・正しい持ち方を意識して鉛筆を持ったりなぞり書きをしたりする。 ・書くときの正しい姿勢を知り、心がける。 ・相手に分かるように自分の名前などを丁寧に書く。 ・友達と楽しんで自己紹介する。 ・場所や場面に応じた声の大きさがあることが分かる。 ・生活の様々な場面で生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を想像させ、具体的な言葉のやり取りができるようにする。 ・必要に応じて、生活科の「学校探検」の学習と関連付けて、特別教室の入り方や職員室での声のかけ方などをできるようにする。 ・読み聞かせの約束を決め、静かに聞いたり集中して聞いたりできるように配慮する。 ・次単元の「どうぞ よろしく」につながる学習である。 ・唱歌を歌うことで鉛筆の持ち方や椅子の座り方などを毎回確認する。 ・生活科「きょうから 1ねんせい」の学習につながる活動である。 ・自己紹介の仕方など、手本を見せて安心して取り組めるようにする。 ・単なる交換にとどまらないよう、対話の話型を示す。 ・実際に校庭や体育館に行って声を出してみることで届く声を体感できるようにする。 ・大きな声と怒鳴り声とは異なることを、声を出したり、友達の声を聞いたりしながら自分で気付くことを大切にする。

園からつなぐ視点

就学前の生活経験の差が出やすいことを考慮し、国語科をはじめとした学習の基礎基本を徹底する場とする。本単元だけでなく、児童の実態に応じて繰り返し指導していく。就学前に製作等の活動で、クレパスや色鉛筆などを使う際には、鉛筆の持ち方を意識しておく。また、普段の生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを受けとめたりする中で、人とかわらうという態度を養っていく。

10の姿を踏まえたつながり

